

第3回三重県地球温暖化対策総合計画（仮称）策定部会 議事概要

- 1 日時 令和2年8月6日（木） 14時00分から16時30分まで
- 2 場所 三重県勤労者福祉会館5階 第2教室
- 3 議事

（1）三重県地球温暖化対策総合計画（仮称）素案について

- 資料1、2、3について、事務局から説明。
- 委員からの主な意見は以下のとおり。
 - ・ この計画をすべての県民に読んでもらいたいが、まずは県庁職員に読んでもらえるような仕掛けが必要。
 - ・ 運輸部門における物流の効率化について、宅配事業者等が駐車スペースがなく非常に苦慮しているため、都市の再開発などの際、駅前にトラックベイなど荷さばきができるような施設の整備を是非ともお願いしたい。
 - ・ 資料1 10ページの表1 温室効果ガスの特徴は、専門的過ぎるので、もう少しわかりやすいように工夫する必要がある。
 - ・ みんなで取り組んでいくことを考えると、家庭での取組にいかにか落とし込んでいくかが重要。取組によりポイントがつくといい、インセンティブに繋がるような取組も合わせて考えてほしい。
 - ・ 三重県がSDGs未来都市に選定されたことを書き込んでほしい。
 - ・ 三重県の削減目標については、国を上回るようなものができればいい。
 - ・ 地球温暖化対策で一番重要なのは排出総量で、三重県としてどれだけ下げられるかということが重要。限られた予算や人員の中でやっていくには、今ある技術でなるべく効果的に大きな削減効果が得られるものに、予算を集中的に配分していくべき。
 - ・ 水素やアンモニアを燃焼させると出てくるものは水なので、いかにもクリーンに見えるが、実は水素、アンモニアを作るためには、大量のエネルギーを消費する。末端の水素活用だけでなく、全体的なエネルギーを削減することが重要で、なおかつ、燃料電池などは非常に効率が高いので、そういったところを計画の中に取り込んでほしい。
 - ・ 多くの方は、地球環境問題や温暖化対策への関心は高いが、何から取り組んでいいかわからず、なかなか自分事として行動に踏み切れない。自分事として捉えてもらうためには、ビジョンやあるべき姿として、キャッチフレーズやスローガンのようなものが必要ではないか。
 - ・ 今の道路では快適に自転車を活用するのは難しい部分もあるので、自転車や歩行者優先の道づくりなどインフラ整備も重要である。
 - ・ 森林が皆伐されることで土砂崩れが起こることが心配であるため、間伐等で皆伐にならないような方法はないのか。

- ・ ZEHやZEBがどういうものかわかりづらい。
- ・ 緑化活動の促進に、地元の種から育てた木を植えるような「地域性」という言葉を盛り込んでどうか。
- ・ 販売する加工食品には、内容以外にも栄養、カロリーなどの表示が義務付けられており、それらのラベルがすべてごみになっていく。さらに、消費者の目に留まるようなものも必要であり、環境との折り合いが難しいと感じている。
- ・ 例えば、企業が地球環境を良くしようと努力することは、経営者や経営に携わる方たちが、家庭でもおそらく頑張ってもらえるはずで、家庭部門と産業部門は独立でなくて関連している。他の部門も同様で、一つの取組が複数の部門に関係することを理解してもらうことは極めて重要である。
- ・ 気候変動に興味を持ってもらうために、子どもにはサイエンスとして地球のことを理解し面白いと感じてもらおう。大人には危機を煽り、他人事じゃないと思ってもらえるような仕掛けが有効ではないか。
- ・ 自転車の利用促進について、単に関係機関と連携しますということでは、どんなことをするためにどこと連携するのかわからないため、もう少し詳しく記述してほしい。
- ・ 資料1 7ページの図4 長期大幅削減の絵姿（街のイメージ）について、わかりにくいと感じるので、もう少しわかりやすい、いろんな方にイメージしやすいものにしてほしい。
- ・ 資料1 2ページの図3 気候変動の緩和と適応について、子供たちへの普及啓発のための教科書みたいなものであればこれでいいのかもしれないが、全体的なバランスを考え、適切なものにするべき。
- ・ 新型コロナウイルスの関係で予算が大変逼迫しているというのはわかるが、環境問題も人類全体の危機である。もっと危機感を訴え、予算をしっかりとつけてほしい。
- ・ 最近の生活者や企業に対するSDGsの意識調査では、少しずつ意識は高まってきており、生活者の6割以上がESGに関する企業の取組に興味を持っている。一方、企業は、CSRや企業好感度について強く意識をしているようである。そうした状況をふまえ、SDGsを生かしながら、前のめりで取り組んでほしい。

(2) 今後のスケジュール（案）について

- 資料4について事務局から説明。
- 委員からの意見なし。